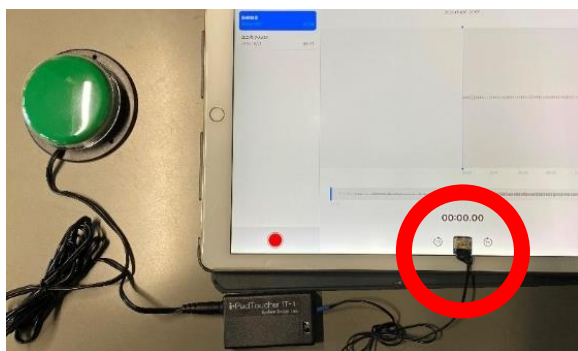


ICT 活用実践の紹介

夏季休業中に実施した入力や意思表示を支える機器やアプリについての研修会に関連して、これらの機器を活用した事例、または、活用を予定している事例を紹介します。

■小学部4年

朝の会の点呼の時に、iPadに押しボタンスイッチを接続し、VOCAとして活用します。接続には「i+Padタッチャー」という機器を介します。様々な接続用機器が販売されていますが、この機器は画面のタップしたい場所に直接貼り付けて使用しますので、接続を容易に行うことができ、事前準備の負担を減らすことができます。また、iPadを無線（Bluetooth）でスピーカーに接続すると、大きな音量でも使用できます。



- 再生ボタンにスイッチを貼り付けて使用します。



- ライトニング端子に接続するタイプのアダプタも本校では導入しています。使用するにはiPad側の設定が必要になります。

■小学部5年

視線入力装置（トビーアイトラッカー5）を使用して、朝の健康観察を行っています。健康状態を表すボードを視線でマウスを動かして選択します。マウスを動かすためのソフトは「見るマウス」というフリーソフトを使用しています。苦手意識をもたずに少しずつ機器に慣れることができるように、2択のボードから始めて、今後4択などステップアップしていく予定です。



- 画面下部のセンサーが視線を読み取り、マウスカーソルを動かします。



- 動きが分かりやすいように、カーソルのサイズを大きくし、選択した方が色が変わるボードを作成しました。ボード作成にはホームページ作成ソフトを使用しました。

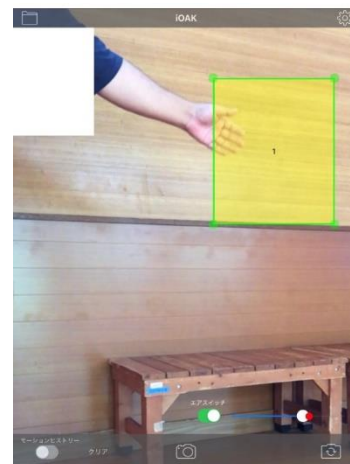
■小学部5年

(※よこてNetにも掲載する内容です。)

体の動きをカメラが捉えて、スイッチとして働く「iOAK」というアプリと、電池で動く機器のオンオフを制御できる「Mabeee」という乾電池型のIoT機器を組み合わせ、「体を少し動かすことで、電動のシャボン玉マシンや水鉄砲等を操作する」ことを可能にした実践です。体への負担が少なくなり、機器の操作に専念できました。自分の行動の結果が、友達とのかかわりにつながるといった経験を通して、主体的に行動する姿が見られました。この機器のセッティングは比較的容易に行うことができ、教師も負担感が少なく活用することができました。



・乾電池型IoT機器「Mabeee」



・iOAKの画面。画面右上の枠が動きを検知しスイッチとして機能します。

- ・電動シャボン玉マシンを手や頭の動きで操作しました。

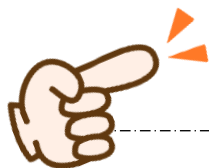
■高等部1年、訪問学級（中学部2年、高等部2年）など

棒スイッチを改造マウスに接続して、教師が作成したプレゼンテーションを進める等の活動に使用しています。高等部1年では校内実習で印刷の役割を行うために活用する予定です。



- ・スイッチをオンにすることで、クリックをすることができます。（この改造マウスの場合は左クリック）

- ・改造マウスは校内にいくつか用意があります。有線、無線、種類がありますので、活用の際は担当まで。



今回取り上げた機器類は、授業前の事前準備が比較的容易です。

「準備がラク」ということも、ICTの活用を進める上で大きなポイントと言えるでしょう。「使ってみたい」「試してみたい」という希望がありましたら、ICT担当までお声がけください。